

北九州市立
文学館

友の会会報

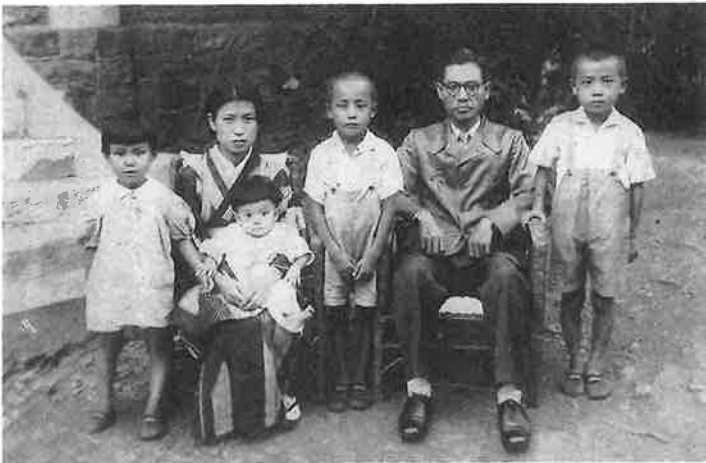
第17号

2023年9月

文学館友の会理事で俳句雑誌「青嶺」を主宰する岸原清行さん(88)は、数多くの戦争にまつわる句を詠んできました。原点には太平洋戦争敗戦時の中国からの引き揚げ体験があります。6月29日に開かれた友の会の総会に先だち岸原さんは講演、自身の体験を交えて平和の大切さを訴えました。講演後の取材とあわせて、その内容をご紹介します。(文責・伊藤和人)

平和への思い 17音に

岸原清行さん 原点は引き揚げ体験



1942年、中国での岸原さん一家。中央の男の子が岸原さん

私は小学3年生の時に、日本統治下の中国・山東省の淄博市で敗戦を迎えました。技術者の父は現地の炭鉱所長を務めていました。日本の不敗を信じていた父が、短波ラジオから流れる雑音混じりの玉音放送に青ざめていたことを覚えています。何不自由なかった親子5人の生活がその日から暗転しました。

〈蟬の幹玉音まざと甦る〉

会員の皆様の原稿を募集 好きな本や作家など、文学に関するものであれば内容は問いません。文学館や友の会に対する意見や提言もどうぞ。6000字程度で事務局までお送りください。

翌年に起きた中国内戦に迫られるように引き揚げの途に就きました。父は現地での炭鉱経営を中国側に命じられて残留。私は身重の母、2人の妹と、4000キ離れた青島港を目指しました。リュック一つを背に貨車とトラックに揺られ、道なき道を歩きました。しばしば収奪に遭い、力尽きる人も多くいました。

青島で米軍の上陸用舟艇に乗り込み、6月2日に博多港に到着。船内でも多くの人々が亡くなり水葬に付されました。遺体を沈め、あたりをぐるりと回りながら鳴らされた汽笛を何度も聞きました。

〈リュック背に灼くる大地を引揚げし〉
戦後は母の郷里の鹿児島に住みましたが母、それに遅れて引き揚げてきた父を相次ぎ結核で失いました。私は中学卒業後に農協に就職、23歳で妹3人を連れて八幡に移り三菱鉱業(現三菱マテリアル)に再就職、62歳まで勤めました。



岸原清行さん

1935(昭和10)年、旧八幡市生まれ。戦後、「菜殻火」の野見山朱鳥や「地平」の兒玉南草に師事。2001(平成13)年に「青嶺」を創刊。福岡県俳句協会会長。福岡県民俳句大会や檜山荘子ども俳句大会の選者も務める。他に戦争を詠んだ句として「桜貝数多の兵の還らざる」(十二月八日うららに晴れて忘らるる)などがある。

中国の地は忘れがたく、妹たちと再訪したのが定年退職の年です。引き揚げの経路を逆にとどろとうと青島まで海路で、そこから400キロの道のりをマイクログラスでひた走りました。

〈故郷へ黍畑千里駆け来る〉

淄博市は外国人には非公認の地区でしたが、事情を察知した通訳が、父の勤めた炭鉱事務所まで案内してくれたのです。責任者は当初は硬い表情でしたが父の履歴を話すと和らぎ、旧居まで案内してくれました。ドイツ植民地時代に建てられた瀟洒な建物は昔のまま。52年ぶりの対面に涙が止まりませんでした。

〈木の葉降る窓もベチカもそのままに〉

私は中国への日本の加害をわびました。しかし彼は「残念な歴史があったが親の時代のこと。これからは私たちがよい関係を築いていきましょう」と。これを機に彼との交友も始まりました。

歴史を認識していなければ、再び過ちを繰り返すことになる。そんな思いで折に触れ、戦争の句を詠んできました。花鳥風月だけでなく、時代を見据える目が俳句には必要だと思えます。

2022年度 友の会 決算
[22年4月1日～23年3月31日]

| (収入の部) | | |
|-------------|-----------|--|
| 項目 | 決算額(円) | 備考 |
| 会費 | 324,000 | 会費 2,000円×162件 |
| 特別企画展収入 | 2,642,791 | 特別企画展のグッズ販売手数料収入など |
| 雑入 | 13 | 預金利息 |
| 前年度繰越金 | 1,117,416 | |
| 合計 | 4,084,220 | |
| (支出の部) | | |
| 項目 | 決算額(円) | 備考 |
| 入館料 | 100,880 | 定期券(480円×176人) 84,480円 特別企画展(13人) 16,400円 |
| 特別企画展関連経費 | 2,670,833 | 特別企画展のグッズ販売委託料等 |
| 自主・共催事業関連経費 | 0 | |
| 会議費 | 1,950 | |
| 印刷費 | 91,520 | 友の会会報(年2回)印刷代 |
| 郵送料 | 97,357 | 切手、ハガキ、郵送料等 |
| 消耗品費等 | 0 | |
| 予備費 | 0 | |
| 合計 | 2,962,540 | |

(収入の部) 4,084,220円 - (支出の部) 2,962,540円 = 1,121,680円 [次年度繰越額]

2023年度 友の会 予算
[23年4月1日～24年3月31日]

| (収入の部) | | |
|-------------|-----------|------------------------------|
| 項目 | 予算額(円) | 備考 |
| 会費 | 400,000 | 2,000円×200人 |
| 特別企画展収入 | 500,000 | 特別企画展のグッズ販売手数料収入など |
| 雑入 | 10 | 預金利息 |
| 前年度繰越金 | 1,121,680 | |
| 合計 | 2,021,690 | |
| (支出の部) | | |
| 項目 | 予算額(円) | 備考 |
| 入館料 | 156,000 | 定期券 96,000円 特別企画展 60,000円 |
| 特別企画展関連経費 | 500,000 | 特別企画展のグッズ販売委託料等 |
| 自主・共催事業関連経費 | 50,000 | 特別企画展自主事業など |
| 会議費 | 10,000 | |
| 印刷費 | 100,000 | 友の会会報 2回分 |
| 郵送料 | 200,000 | 会報等郵送料 |
| 消耗品費等 | 40,000 | |
| 予備費 | 965,690 | |
| 合計 | 2,021,690 | |

(収入の部) 2,021,690円 - (支出の部) 2,021,690円 = 0円

活動報告

副会長の江口さん
子ども向け文章教室



友の会は、昨年に引き続き二回目となる、夏休みの「やさしい文章教室」を7月29日と8月19日に文学館で開催しました。講師は、友の会副会長で、北九州市内の小学校・中学校での経験が豊富な江口恵子さん(九州女子大学特任教授)です。

小学3年生から中学1年生の児童生徒16名とその保護者が参加し、読書感想文や詩の書き方を学びました。読書感想文の教室は他所でも開催されていますが、詩の書き方を学べる所は珍しいと思います。子どもたちにすぐれた詩人の作品を知ってもらい、次世代に魅力を伝える意義は大きいですし、子どもたちにとっても

貴重な経験になったと感じました。

昨年を上回る参加人数で、充実した二日間になりました。参加者からは、「学校でも今日のような授業があると、作文に苦手意識がなくなるのではないかと思います」「読書感想文だけがなかなか手が進まなかったが、今日から教室の内容を参考に子どもと一緒に書いていこうと思います」といった声が寄せられました。

(友の会会員 野口敬太郎)

活動報告

長野ヒデ子展
「絵本と紙芝居の読み聞かせ」
ブックネットワーク北九州代表 仲紀子

7月22日から9月18日まで開催の第32回特別企画展「長野ヒデ子の絵本と紙芝居展」で、友の会一員として合計4回の読み聞かせとおはなし会を「交流ひろば」で実施しました。乳幼児や小学生連れの親子や30〜70代の大人など、幅広い年齢層の方々が集まりました。

当日は、長野ヒデ子さんの代表作「せとうちたいこさんシリーズ」や紙芝居の読み聞かせ、作品を紹介するブックトークを楽しんでもらいました。絵本「おにぎりおにぎり」の読み聞かせの時には、自然と参加者がおにぎ

りを握りはじめたり、重箱に詰めて持ってきた手作り布絵本のお弁当を各自で取り分けたりして、青いステンドグラスのもと、さながらピクニック気分となりました。また、わらべ歌絵本「げんこつやまのたぬきさん」を使ったり、じゃんけん大会では、勝ち残った人に手作り布絵本のプレゼントもありました。

そして、八幡東区出身の詩人みずかみかすよさんと長野ヒデ子さんの詩の絵本「きんのストロー」の中から、教科書にも掲載された詩を全員で音読しました。最後に今年生誕110年の新美南吉の詩「天国」から生まれた絵本「てんごく」を朗読し、ブックリストを配布して終了しました。

皆様去りがたいご様子でおはなし会の余韻を楽しんでいらつしやいました。長野ヒデ子さんの世界を0歳から大人まで一緒に楽しむことのできた夏のひと時となりました。

(友の会理事)



会員寄稿

書と文学

橋村 淑子

もう四十数年も前になるが、近くでグループとささやかな書道の展覧会を開き始めた。そこで「いいわね」と評されたのは作品に書かれた詩歌や文章だった。書作品にとって、取り上げる言葉の重要性を意識した私は書と相性の良い詩文を探し求め、そして「読める文字」で書くことを条件とした。親しみやすい展覧会として来場者は年ごとに増えていったが、開催する私達の方が新鮮味を失ってきた。もっと意義のある展覧会を、との思いは小倉に縁の深い文豪の「鷗外を書く」企画へと進んだ。

ところが、未熟だった私には鷗外の作品が探し出せない。図書館の利用の仕方さえ知らなかった。困って北九州市立文学館を訪ねた。そこで小倉三部作は北九州森鷗外記念会で入手できること、漢詩などは古本サイトと、学芸員の女性に教わった。ほぼ全作品を読み終えた時に、部分的な文章であれ、筆で書いたものが集まると、そこから鷗外の全容が浮かび上がる、との確信が湧いた。

二〇〇九年六月、鷗外旧居で展覧会を開催、これを機に私が会長を務める光草書道会は「文学を書く」を基本理念に掲げた。

その後、二〇一六年から北九州市立文学館との共催で毎年展覧会を開催している。江戸文学、古事記、北欧の神話と童話、アメリカ文学などを取り上げたが、なかでもシェイクスピアとの出会いは衝撃的であった。

二〇一八年、ロンドンでも「シェイクスピアを書く」展を開催したが、書を身にまとった彼は好感を持って受け入れられた。仮名の技法を持つ日本の書道は線で表されるアルファベットの表現も可能だ。多くの国の文学とも手を携えて、書を世界レベルのアートとしたい。書道の未来に不安を感じている私の切なる願いである。



2023年5月に開催の「アメリカ文学 その広大さと多様さ」

会員寄稿

『鷗外の小倉時代展』に寄せて

多田 康廣

昨年、森鷗外没後百年の節目に、文学館で企画展「鷗外の小倉時代」がありました。地元ならではの展示内容で、主催者側の矜持が感じられました。

和氣清麻呂に関する鷗外さんの著作「和氣清麻呂と足立山と」、「再び和氣ノ清麻呂と足立山との事に就きて」の資料解説が、精緻でした。直筆原稿のみならず、初稿と完稿の対稿もあり、推敲の跡が生々しく紹介されており、鷗外さんが易々と書いているようで、実は苦悩していた姿も浮上します。なぜ、帰京後も、改作ともいえる続編を改めて草したのか謎が解けるようです。納得のいく資料を得て実証的な年譜に仕上げている過程が見られます。鷗外研究の第一人者・山崎一穎氏による書誌分析

映画と文学

再開へのご支援に感謝

小倉昭和館館主 樋口 智巳

昨年8月の巨過市場一帯を襲った火災で焼失した小倉昭和館は、今年12月に元の場所で営業を再開いたします。不可能と思われた街の小さな映画館の再建に全国からの1万7000筆を超える署名やクラウドファンディング・義援金窓口に多くのご支援をいただき、感謝の想いでいっぱいです。この間、文学館友の会の皆様からも物心両面にわたるご支援を賜りました。厚くお礼申し上げます。

北九州市が12月13日から開催する「北九州国際映画祭」に歩調を合わせての劇場再開です。当館での上映ではありませんが映画祭オープニング作品として、岩下俊作原作「無法松の一生」（1943年）修復版が上映されること、先日発表され、小倉昭和館にとってもうれしいニュースでした。この作品で主人公の富島松五郎を演じた阪東妻三郎さんは、現在の小倉北区香春口にあった昭和館の姉妹館「日活館」に来演、長男の田村高広さんと一緒に我が家にお泊りになったご縁があります。特別な作品として焼失前の昭和館でも小倉祇園太鼓のお祭

だと知り、得心がきました。小規模ながら秀逸な企画展でした。

気難しい外観や難解な文体もあり、現在、鷗外作品はあまり読まれていないようです。実は、身近な『小倉日記』からは、面倒見がよく気さくな鷗外さんの実像をうかがうことができます。その『小倉日記』をバックに入れて、聖地巡りではありませんが、ゆかりの地を探し歩いてはいかがでしょうか。時空を超えて、明治と現在との出会いもあり、その土地に根付いた人々の姿や文物とのわくわくする発見があると思われれます。

例えば、和氣清麻呂ゆかりの妙見神社では北斗信仰があり、「北辰を妙見大菩薩として崇信」していたことを鷗外さんは知っていたのでしよう。

二十七日。馬を買う。名は北斗。」

（明治33年6月27日『小倉日記』より）

りに合わせて度々上映しております。

太平洋戦争中に作られた作品は、上映時には松五郎が陸軍大尉の未亡人に恋慕の情を抱くシーンが、そして戦後の占領時代には松五郎が明治時代の小学校唱歌を歌うシーンが、それぞれ検閲でカットされたことで有名です。ヒロインを演じた園井恵子さんは広島原爆のために亡くなりました。オープニングでは、これら作品の数奇な運命をひもとく短編ドキュメンタリー映画「ウィール・オブ・フェイト」も上映されます。ナレーションは今回の映画祭のアンバサダーでもあるリリー・フランキーさんです。

小倉昭和館でも、北九州にちなんだ作品が国際映画祭で上映される予定です。再開後も一層のご支援をお願いいたします。

「映画の街・北九州」にとりまして、12月は熱い季節になりそうです。ご期待ください！

（友の会理事）



建設が進む新しい小倉昭和館